戦災資料の収集と展示等のあり方の方向性とりまとめ（案）（概要）

資料　1

基本理念

・富山大空襲をはじめとする戦災の記憶を風化させず、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代へ継承する
・富山大空襲に関する資料のみならず、戦時下の県民や子どもたちの暮らし、体験者・遺族の証言、戦災遺構、戦後復興の歩みを地域全体の歴史として捉え、資料と記憶を収集、保存し、未来へ引き継いでいく
・資料と記憶の収集・保存、展示・活用を有機的に連携させ、県民が学び、考え、平和の尊さを胸に刻み、次世代へ伝えることができる環境を整える



各項目の基本方針と方向性

収　集

失われる前に、記憶と資料を残す

収集対象や基準を明確にし、把握と収集に早急に取り組む

■収集対象
・富山大空襲をはじめとする戦災資料、戦時下の暮らしを伝える生活用品、遺品、体験にまつわるエピソードなど

■収集基準
・富山県との関連性、由来や情報の確かさ等、収集基準を整備

■収集方法
・資料が処分される前に相談できる仕組みづくりと収集基準に基づく提供の呼びかけ
・映像・音声、報道機関等が保有する記録の活用の検討

保　存

適切に保存し、未来へ引き継ぐ

保存と活用を一体的に捉え、整理や記録・保存を進める

■保存環境の確保
・専門的知見を持つ人材による適切な保存管理

■資料の整理・管理
・証言やエピソードを一体的に記録、管理上のルールの整理

■デジタル保存・情報発信
・劣化が著しい資料は優先的にデータ化
・保存資料の情報発信、他地域の資料館との知見の共有

■ゆかりの場所・遺構等の記録保存
・戦災遺構や爆撃中心点などの調査・検証、説明板の設置

展　示

いつでも触れ、学び、考えられる場を提供する

常設展示施設の設置を柱に、子どもたちをはじめ幅広い世代が主体的に考えることができる継続性・発展性のある展示を目指す

■展示内容
・戦争に至る時代背景、富山大空襲、戦時下の暮らし、戦後復興から現在までの歩みを一体的に伝える
・平和の大切さを実感するとともに、経験から学び、未来への希望を育むきっかけとなる展示
・史実を正確かつ客観的に伝える
・来館者同士の感想や思いの共有

■展示方法
・実物資料、映像、模型等の効果的活用とデジタル技術を取り入れた体験型の展示
・子ども向けの解説や、来館者が主体的に学べる参加型の展示
・実物資料とデジタル技術の効果的組合せ

■展示環境
・団体見学や語り部講座に対応できるスペースの確保、バリアフリーや外国人来館者への対応
・来館者の年齢や心情に配慮した展示空間の工夫
・アクセスや歴史とのつながりを考慮した立地、県有・市有施設を含めた既存施設の活用

活　用

学びを広げ、次世代への継承につなげる

展示施設や戦災資料の学校・地域における平和学習等への幅広い活用と、学びを次世代へ伝える機会の充実

■学校での活用
・教育委員会や学校と連携した校外学習、資料の貸出し、出前授業
・教材セットや学習プログラムの提案、校外学習等への活用事例紹介による継続的な利用の促進

■地域での活用
・講演会や語り部による講話、資料の貸出し等活用の促進
・展示施設と戦災ゆかりの場所を巡り、歴史を学ぶ取組みの推進
・他地域の資料館等との交流・連携、広い視点から学ぶ機会の充実

■継承の担い手育成への活用
・子どもや若者たちが自ら調べ、成果や思いを発信できる機会づくり
・学校の文集など残された証言等の活用、体験者等と若い世代の交流を通じた次世代の継承活動の担い手育成





具体化のための方策

県と富山市は、次の事項に留意し、役割分担の協議・調整を行い、基本計画の策定に取り組む
①持続可能な運営体制の構築と関係者との連携協力体制の検討・整備
②施設整備の具体化に向けた必要事項の整理・検討
③専門人材の配置や確保・育成のあり方の検討
④取組みの優先順位と工程の整理